

大雨が引き起こす危険を知る

大雨がきっかけで起こる災害には、家や道路が水につかる「浸水」と、崖が崩れたり、土砂が流れたりする「土砂災害」の二つがあります。

浸水

川沿いではなくても油断は禁物。傾斜などにより川から離れた地域でも発生する可能性があります



川が氾濫し 道路や家が水につかる

川の近くでは堤防からあふれた大量の水が勢いよく流れ出し、辺り一帯に広がります。土地の低いところでは1階部分が全て浸水することもあります。

雨水ますやマンホールから 水があふれ出る

通常、雨は道路脇の雨水ますなどから下水管を通して川に排水されます。しかし、排水しきれない量の雨が流れ込むと、下水管につながるマンホールのふたが外れたり、水が道路にたまったりします。

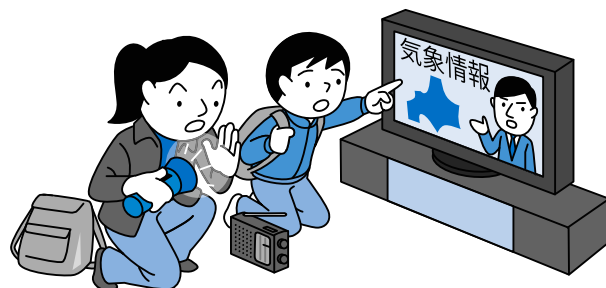
地下街や地下通路に 水が流れ込む

道路にたまった水は、地下へ向かう階段へ流れ込みます。浸水が進むと水圧でドアが開かなくなったり、停電でエレベーターが使えなくなったりして、閉じ込められる危険性があります。

浸水の危険を感じたら…

速やかに情報を集め 待機するか避難所に向かうか判断を

テレビやラジオ、インターネットなどで情報を集め、建物の中に待機するか、避難所などに逃げるかを判断しなければなりません。自宅の2階以上など、予想される水位よりも高い所にいられる場合は、その場での待機も有効です。



避難所など 向かうときは

丈の短いひも靴を履く

長靴だと中に水が入り、脱げて移動がしづらくなることも。脱げにくいひも靴が最適です。

探り棒で足元を確認しながら歩く

道路にたまった水は濁っているため、マンホールのふたが外れてできた穴や、ガラス片などが見えません。棒で足元を確認しながら移動すると安全です。